

公民科（公共）学習指導案

1 単元名 公共の基本原則

この単元は、「2 内容」の「A公共の扉」の「(3)公共的な空間における基本的原則」に該当する。

2 単元の目標

- (1) 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と義務など、公共的な空間における基本的原則について理解する。
- (2) 平等、正義、公正などに着目して、公共的な空間における基本的原則について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。
- (3) 公共的な空間における基本原則について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

3 単元の指導計画(全体6時間)

(1) 指導計画

- ・民主政治の歴史 1時間
- ・憲法の基本原則 2時間
- ・男女平等について考える 3時間（本時1／3）

(2) 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と義務など、公共的な空間における基本的原則について理解している。 | ・平等、正義、公正などに着目して、公共的な空間における基本的原則について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・公共的な空間における基本原則について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 |

(3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

| 次 | 学習内容 | ねらい・学習活動 | 評価の観点 | | | (B)具体的な評価規準 (C)具体的支援 | 評価方法 |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|-------|---|---|------------------------------------------------------------|---------|
| | | | 知 | 思 | 態 | | |
| 第1次 (1) | 【学習課題】 <問い>「一人一人がよりよい民主主義の担い手になるためには」 <問い>「民主政治とは何か」 ・民主政治の歴史 ・社会契約説 | 【ねらい】 民主政治の歴史的経緯や理論的支柱である社会契約説を理解する。 | ● | | | (B)社会契約説、自然権、三権分立など民主政治の重要概念を理解している。 (C)実例をあげて理解させる。 | ・ワークシート |
| | 【学習課題】 <問い>「公共的な空間をつくるために必要な原則とは何か」 ・日本国憲法の3つの基本原則 | 【ねらい】 日本国憲法の3つの原則を通して、憲法改正は、現実課題であり、その手続きを理解する。 | ● | | | (B)憲法改正が、現実課題であることを理解している。 (C)実例をあげて理解させる。 | ・ワークシート |
| 第2次 (2) | 【学習課題】 <問い>「憲法では、どのような人権が定められているか」 ・基本的人権の尊重・平等・自由・義務 | 【ねらい】 憲法の規定について具体例を用いながら説明できる。 | ○ | | | (B)憲法で規定された国民の権利と義務について、体系的に理解している。 (C)教科書や動画資料を再確認させる。 | ・ワークシート |

| | | | | | | |
|------------|--------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|---|---|------------------------------------------------------|-----------------------|
| 第3次 (3) | <p>【学習課題】<問い>「男女共同参画社会の実現には何が必要か」</p> <p>・男女平等について考える1</p> | <p>【ねらい】大学入試と男女差別を考察する。</p> | ○ | ● | (B) 男女間の格差をどのように解決すべきか考察し表現している。 (C) 実例をあげて理解させる。 | ・ワークシート |
| | <p>・男女平等について考える2</p> | <p>【ねらい】女性医師が日本で少ない理由を考察する。</p> | ○ | ● | (B) 女性医師が日本で少ない理由を表現できている。 (C) 個別に助言する。 | ・ワークシート |
| | <p>【学習課題】<単元を貫く問い>「一人一人がよりよい民主主義の担い手になるためには」</p> <p>・まとめ</p> | <p>【ねらい】単元を振り返り、単元を貫く問いについての答えを考える。</p> | ○ | ○ | (4) 参照 | ・ワークシート ・単元振り返りシート |

(4) 評価問題（評価材料）及び評価規準

ア ワークシート（Q3、4）の評価規準【思考・判断・表現】

・男女間の格差の問題の原因を分析し、要点をまとめることができ、新たな課題を発見している。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と評価される例

・問題の原因を考察し、まとめ、整理することができる。

「十分満足できる」状況（A）と評価される例

・問題の原因を複数の視点から考察し、問題を日本社会の課題として捉え、問いを立てることができる。

「努力を要する」状況（C）と評価される生徒の例と教師の指導

・問題を発見し、その問題の原因をまとめ、整理することができない。
⇒個別に助言を与え、問題の原因分析をさせる。

イ 単元振り返りシートの評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

・単元の学習を踏まえ、今後どのような視点をもって学習に取り組んでいくかを記述している。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例

・学習の成果を記述できており、他者との対話で得たことを次の単元の学習で生かそうとしている。

「十分満足できる」状況（A）と判断される例

・学習の成果を記述できており、他者との対話で得たことに加え、幸福、正義、公正のいずれかの視点をもって次の単元の学習に臨もうとしている。

「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導

・学習の成果を記述できていない。
⇒個別に学習を振り返りながら、次の単元の学習に対する視点をもたせる。

4 本時の指導

(1) 本時の目標

憲法で法の下での平等が保障されているが、現実存在する男女間の格差の問題の原因を分析し、男女共同参画社会の実現に向けて新たな問いを立てることができる。

(2) 本時の展開 (○…「評価に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

| | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点・評価 |
|-----|------------------------|----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | ジェンダーギャップ | ・日本の男女格差の現状を予想する。 | ・Kahoot!を活用する。 ・授業の目標を共有する。 |
| 展開 | 大学教育と男女平等 積極的差別是正措置 | ・『男女共同参画白書』（文部科学書）で大学の学部における男女割合を予想する。 ・大学の女子枠について考える。 （個別学習→グループ学習） | ・Google Classroomで配信した課題（ワークシート）を開かせる。 ・感情論に陥らないよう留意させる。 ○ワークシート【思考・判断・表現】 |
| | 医学部入試における男女差別問題 | ・医学部入試における男女差別問題を考察する。 （個別学習→グループ学習） | ・フィッシュボーン図を活用し、思考を整理させる。またロールズ「格差の是正」の視点を示し、考えを深めさせる。 ○ワークシート【思考・判断・表現】 |
| まとめ | 本時のまとめ | ・ワークシートに学習のまとめと自己評価を記述する。 | ・Google Classroomで配信した課題（単元振り返りシート）を開かせる。 |

(3) 本時の評価規準

3 (4) ア参照。

5 成果と課題

評価結果は以下の通りであった。

| | A評価 | B評価 | C評価 |
|---------------|-------------|------------|------------|
| 思考・判断・表現 | 45名 (23%) | 145名 (74%) | 5名 (2.5%) |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 65名 (33.3%) | 115名 (58%) | 15名 (7.6%) |

(1) 思考・判断・表現について

生徒にとって、身近なテーマである「大学入試」を取り上げ、『男女平等について考える』授業を実施した。近年、大学入試において「女子枠」という制度を採用する大学が増加している。この「入試における女子枠は、平等かどうか、公正か、正義か」という発問に対して、さまざまな視点から議論し、生徒の思考を活性化させることができた。「平等だけど正義ではない」「平等でなければ正義とは言えない」「正義とは一体何か」といった多様な考え方が出て、生徒の深い学びを促すことができた。その後、医学部入試における男女差別の背後にある要因を踏まえ、異なる立場からの主張に向き合い、問題点を探り、その原因を分析した。多くの生徒は、考察を通じて日本社会の課題を発見することができた。生徒の記述例は以下の通りである。

- ・男女平等を実現する上でも、働く女性が働きやすい社会（保育所や学童等の問題）をもっとつくるのが大切なのではないか。
- ・高校で理系を選択する女子が少ないことこそ、女性の医師不足の問題ではないか。
- ・女性枠を増やすのではなく、女子医者になりたいと思う環境を作ることが大切ではないか。
- ・「女子枠」を増やせば、本当に男女平等は実現できるのか。

一方で、生徒は問題の背後にある要因を考察する難しさを感じていた。大人と比べて知識や経験が不足している高校生に対して、どのようなヒントを与え、スモールステップを踏ませると、生徒の思考が活性化するかを探り、「考える社会科の授業は面白い」と生徒が思えるような授業を実践していきたい。

(2) 主体的に学習に取り組む態度

生徒の自己の学習改善を支援し、中長期的な学習プロセスの評価を行うため、単元の前後で生徒の学習アプローチを見取ることができるような一枚の単元振り返りシート（ポートフォリオ形式）を用意した。

単元を貫く問いである「一人一人がよりよい民主主義の担い手になるためには」に対して、単元の学習前は、「選挙に行く」「世の中に関心をもつ」という記述が目立っていたが、単元の学習の終わりには、上記の内容に加え、「立候補者の公約を読み取る力や判断する力が必要」「自分なりの考えや答えをもつこと」「憲法の面白さに気づき、自分でもっと調べたい」という記述が見られた。また、学習前は問いに回答できなかった生徒のほとんどが、学習後には回答を記述することができていることも確認できたので、単元の目標を達成できたと考えている。

一方で、一人一人の評価対象となる振り返りシートを確認することは時間を要する。改めて評価場面を精選する必要性を痛感した。

6 参考文献

- ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校編）』（国立教育政策研究所）
- ・『一枚ポートフォリオ評価論 OPPAでつくる授業』（堀哲夫他1名・東洋館出版社、2022年）
- ・『「主体的・対話的で深い学び」学習評価の手引き』（田中博之・教育開発研究所、2020年）